

大学祭

穏やかに流れる日々を抜け出て
今日ひと日
賑やかなさざめきの中

楽しさに手を拍ち
華やかさに目を輝かせ
まるで別世界の人たち

けれどそれは別世界
羨むことさえ思いつかない
それほど遠さ

淋しささえ薄れはじめていたのに
諦めに落っこんでいたのに
呼びさまされる想い

風船、プラネタリウム
歌声とかけ声と笑い声と
寄り添い合う恋人たち

ここは夢の中
それでいいと思い込んでいたのに
それでいいと思い込んでいたのに

(1986.7.3)